



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



謹賀新年

理事長 志賀 俊紀

新玉の年を迎えると未来志向になるが、ほかにわ共和国は、二十年という新たなステージへの年を迎えた。やとと大人になったのである。肩を並べて前進するには知恵を出さなくてはならない。平穏な中にも新しいピリツとスパイスがなければ、新鮮さは保てない。米国の詩人サミュエル・ウルマンの人生の詩「青春」は、時を超え民族を超え燦然と輝いている。



1月5日 第49回新年職員研修会を終えて 秋山大輝さん(最前列右から3人目)にも講演をいただき、とても有意義な研修となった

成長と発展性のキーワード

八雲寮 施設長 志賀常盤

人材育成とは、組織が安定的に発展していくための中核となる重要な取り組みである。新卒職員だけでなく、中途採用として加わる人材も多く、それぞれが異なる経験や専門性、価値観を持っている。こうした多様性は組織に新たな視点や活力をもたらす一方で、個々の力を十分に発揮してもらうためには、成長を支える仕組みと前向きに挑戦できる風土が欠かせない。

キャリアアップの方向性を明確にし、挑戦の機会を保障することは、職員の働く意欲を高めるだけでなく、組織全体の質の向上にもつながる。また、人材育成は制度や研修だけで完結するものではなく、自己啓発や自己成長のための努力を日々積み重ねる職員一人ひとりの姿勢があつてこそ実を結ぶ。学び続け、失敗からも学ぼうとする人が増えることで、個人の成長と組織の発展が相互に支え合う関係が築かれていく。

中長期計画を策定し、法人の発展を目指し、日々努力を講じたいと考える。

この「詩」には、昭和天皇とダグラス・マッカーサー司令官の逸話が有名である。昭和天皇は終戦直後の昭和二十年九月二十七日、アメリカ大使館内にあった司令官の執務室を訪問した。歴史的な会見に臨み、この詩が司令官の座右の銘で、執務室の壁に掲げてあった。天皇と司令官はこの詩が共通の話題となったという。そして、和やかな会話は、新たな平安の日本が始まったと言われている。

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方をいう」という有名な一節から始まり、年齢に関係なく、冒険心や情熱、想像力を持ち続けることの重要性を説いている。昨年は戦後八十年という節目に多くの識者の主義主張が示された。

改めて平和が問われたが、福祉関係団体では、ソーシャルワーカー協会長の認識は極めて有効な好感の持てる内容であった。私は本年度で八十二歳を迎える、長崎県では最高齢の理事長になった。サミュエルの詩に肖って、元気印で仕事と研究を楽しみたいものだ。

ダウン症の短命説は誰が提言し、誰が伝播し拡散したのか

ミッチェルの『Kalmuck idiocy(カルムクイの白痴)』(1876)の原著 p.83 に、精神病院(asylums)に入院している人 62 名の死亡率を調査し、一般住民のデータと比較して、若い年齢層(10歳から50歳までの5歳ごとのグループ)では、観察された死亡数と期待される死亡数との比率が非常に高いことを見出した。呉秀三の『精神病学集要下編』の原著にミッチェルは、ダウンより先に紹介している。ミッチェルの原著を読み解くと、ダウンの原著と異なった見解に気付く、石井亮一は短命説に言及していない。それは、ブルーソ『モンゴリズム』(1928)が石井亮一・筆子記念館に所蔵されている事で、石井の認識は、ブルーソがヴァインランドの施設における平均寿命を 14^{1/2} 歳と示し、高齢者が収容されている実態を報告していることを、原著と相互比較してみると真実が分かる。ダウン症の短命説はミッチェルの原著が発信源で呉秀三らが伝播し拡散した。

ほかにわ only one 言葉

ほかにわ only one のゆとり

忙しい日々の中で、時間に余裕をもつて焦らず、行動する事は大切な事だと思えます。早めの行動が習慣化し日常を過ごせる様に心がけたいと思ひこの言葉にしました。
ワークネットやはた 荒木美和

ほかにわ only one の陰

陰の力と言いますよね。花も根っこにささえる力があつてすばらしい花を咲かせる陰の力です。家は大きな柱が見えない力となりささえています。人も陰の力でささえられ、又ささえられていくことに気づき感謝の気持ち忘れずお互い陰になりましょう。
悠炬里 田中史子

ほかにわ only one の生きるよろこび

朝の連続テレビ小説「あんぱん」は、アンパンマンの生みの親であるやなせたかしさんがモデルとなり、幼少期から描かれたドラマです。
アンパンマンマーチの中の「なんのためか」は、このドラマのテーマでもあり戦争を体験したやなせたかしさん自身の思いが深く感じられる言葉ですが、現代を生きる人たちにも共感できるものだと思います。「生きる」を力強く楽しんでほしいと願います。
八雲寮 生川慶子



Tosiki

障害者文化研究で見る

アロハ マハロ ヘレmano 観光農場

クリスマスを目前の平成九年十二月十七日、私たち総勢28名は九州の空の玄関から常夏の国「ハワイ」に向けて日本航空のジャンボ機で飛び立ちました。このツアーの企画は「読売新聞光と愛の事業団」で、在宅障害者や、施設で家族の人と関わりの薄い人達に、障害は持つっていても、国を越えた交流によって、お互いが励まし合う機会になればという趣旨で実行されました。

している担当者からありました。施設内に売店なども完備されており、この施設で利用者が制作した土産品の他に一般的な観光土産品が即売されていきました。



日本の施設の場合は授産施設でも即売しているが品数がこのように多くはなく、観光を主としていけば必ずしもこのヘレmano・プランテーションの作品だけでは対応できないので土産専門店との連携があるのであろう。また、パイナップルの缶詰の世界的な企業ドールとの関係がこの施設運営の基盤になっていました。

アメリカの商業社会と福祉施設の連係の一面を見ることができました。知的障害者が国際交流するに当たって、それぞれの個性を大切にすること側面はあるが、人種を越え、国を越え言葉の障害を越えて心をひとつに繋ぐのはやはりダンスと

歌でありました。一行28名は元気印で一日掛かりの島めぐりと洒落込んだのでした。いよいよ最後のヘレmano・プランテーションとの国際親善施設交流行事がこのホテルで行われ、楽しかった交流ツアーもあつという間に時間が経ち、別れの時間となりました。

この旅行の主催者、読売新聞光と愛の事業団・事務局長の上四本さんの開会の挨拶で交流会は始まりました。さようなら・グッバイの言葉は悲しくつらいけど、アーチで友情を示そう。私たち28名は二人が一人になってアーチを作りました。その中をヘレmanoの七名の仲間の人達が握手しながら、肩をたたきながら、お互いに明日に向かって強く生きることを誓い合いながら……



場所、旅の楽しさをそれなりの喜びを持って体験することは贅沢なことではなく、極めてあたり前のことであることを実感しました。

旅、それは一度しかない人生にさわやかな清涼飲料水のような力があります。

旅、それは障害を持つ人達に勇氣と希望をかなえてくれます。

旅、それは一期一会を演出する思い出作りの達人なかもしれません。

- 岩永廣太郎 松永正征
- 竹下昭平
- 志賀俊紀 松本昇館長
- 河合祥世
- 馬場伯明 本田紘平
- 近藤孝信 成末浩二



口之津歴史資料館新館五周年記念シンポジウム開催

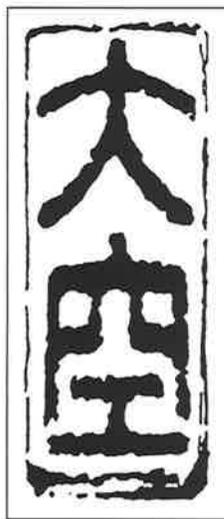
口之津歴史民俗資料館本館開設5周年記念行事「アルメイダと口之津港のドラマ」シンポジウムは素敵な「知の広場」でした。故郷の歴史の未知の一端に触れ興奮しました。講師の先生と主催者の皆様に心から御礼申し上げます。■乃木リリー講師は、基調講演でルイス・アルメイダの生誕地や活動の軌跡を、詳細な一次資料により人物とその豊かな人間性を浮き彫りにされました。■志賀俊紀講師による福祉文化史の視点からの口之津港歴史の読解は新鮮な内容でした。■滝澤修身長崎純心大学大学院教授は、乃木講師の調査成果を高く評価しつつ、スペインでの研究等を踏まえ16・17世紀の日本宣教の全体像の中での宣教師アルメイダの島原半島布教について話されました。■口之津に刻まれた布教・教育・医療等の分野での足跡を知りました。参加者の質問も活発であり会場には熱気が溢れました。■私は1944年南串町生まれで中高時代を同級生の志賀俊紀講師たちと過ごしました。他を認めない一神教の宗教であるキリスト教には好意を持っていません。穏やかで包容力がある日本古来の神道や仏教に親和性と共感を抱いています。■本シンポジウムへの参加により「アルメイダっていい人だった」という人物がわかった。更に、政治・経済・文化・宗教などが異なっても、人間は交流し理解し合うことが重要である事を学びました。ありがとうございました。

馬場伯明 雲仙市/元川鉄/順天堂大学勤務

第2分科会;ミニ3Aクラス会

口之津民俗資料館開設五周年記念シンポジウムに、東京から盟友の馬場伯明君と津曲ゼミの河合祥世さんが参加。市内の級友が馳せ参じてくれた。同夜洒落た寿司屋で、ミニ同窓会を開催した。まだまだ意気軒昂な八十路、今年も元気印、仲間は楽しいものだ。(竹下昭平)

文・写真 口の津史談会員竹下昭平(法人第三者委員)の最新の情報“からゆきさん”が、シンガポールで相互に呼び合う“言葉”を大発見、



障害者支援施設
八雲寮広報部

八雲寮らしさの方向性とは

八雲寮 施設長 志賀常盤

○地域連携推進会議発足

令和七年度より「地域連携推進会議」の設置義務がスタートしました。目的としては、障害福祉サービス事業所が地域との連携を深め、支援の質向上と透明性を高めるために設置する外部評価も含む協議会のことで、利用者、保護者、民生委員、福祉施設経営者、地域の経営者、施設職員で協議会チームを立ち上げました。令和七年四月二十日に第一回会議を行いました。施設内の見学や設備の改善点など、施設職員以外の目線での気づきや指摘を頂き、利用者にとって安全で安心してできる施設運営に反映させたいと思います。

○定例行事の見直し

八雲寮の特色として、農作物生産（じゃがいも・玉ねぎ）が中心の活動を行ってきました。私が入職した四半世紀前は利用者も若く元気な作業班でしたし、収穫の实りに感謝して定例行事として「収穫祭」を開催してきました。しかし、長期利用者がほとんどのため高齢化等に伴い、もはや作業班として維持することが困難な状況となってきました。利用者にとっては食べる楽しみと見える行事だけに出来るだけ継続したいと思えますが、現状を機に、「(仮)八雲寮創立誕生祭」に変更して行きたいと考えています。利用者の喜びを考えると、行事を無くすのではなく、形を変えて提供したいと考えます。その他にも小グループ活動や家族旅行など、年間を通じていろんな行



今後の行事
2月
節分
年祝い

3月
活動発表会

入賞を目指そう!

2月に開催予定の第33回原城マラソン大会に向けて練習を頑張っています。山下優大さんは昨年、初めて3kmコースに出場し、6位という結果でした。今年は少し距離が長い5kmコースにエントリーしました。今回はマラソン大会に向けて目標ベスト3位を目指して自分でスケジュールを立て、練習に励んでいます。日々の練習の成果が実を結ぶよう職員も見守っていきます。これからもいろんなスポーツ大会に積極的に参加してくれることを期待します。(松本)



練習風景の様子

事がありますが、時代とともに変化させていくことも必要不可欠であると思います。

○地域に向かつて情報発信

長期入院や高齢者施設への移行など、利用者数も減少しています。経営を維持することだけではなく、施設が活性化するため、新規利用者の獲得のため、情報発信に力を注ぎたいと思います。利用者職員でワイワイガヤガヤしていたあの時代を取り戻すためにも、チーム一丸となって試行錯誤取り組みたいと思います。

相撲観戦〜諫早場所〜

大相撲冬巡業が諫早で六年ぶりに開催されるということで利用者の方へ希望を募ると、参加したいと意見が多く今回、活動を取り入れました。



当日は満員御礼で日頃、テレビで観戦することしかできない人気力士の姿を間近で見ることができ、興奮される利用者の方もいました。幕内・横綱の土俵入りに釘付けになり、長崎県出身の平戸海関、新大関の安青錦関の取り組みでは歓声が上がり館内も大盛況でした。

帰りは相撲お土産セットを手に記念撮影を行いました。満足された一日でした。

(福田)



諫早市中央体育館前にて記念撮影

1年間お疲れ様でした!

1年の締めくくりに皆さん待望の忘年会を南有馬町にある「真砂」にて開催しました。会場に入ると、テーブルのご馳走に皆さんの顔が益々笑顔になりました。自治会長佐藤浩史さんの司会で始まり、宮崎功さんの音頭で乾杯スタート。

温かい料理も次々に運ばれてきて皆さんお腹いっぱいになったところで余興が始まりました。職員による余興ではマツケンサンバを踊り、大いに盛り上がりました。



抽選会やカラオケで楽しまれ1年間皆さんが無事に過ごせた事をお祝いして終了となりました。(山本)

がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・?



丸尾達也さん

農芸班で頑張っている丸尾さん。毎日、給食を楽しみにしています。これからも元気に過ごします。

じゃがいも雑感!

今年も新年揃っての始まりは恒例の研修会と新年会にて出発した。年の初めに職員同士のコミュニケーションを活性化することができ喜ばしく思う反面、今年一年の抱負を共有することに関してはまだ物足りない感じがした。

令和の働き方改革で業務引き継ぎや連携の意識が希薄になりがちなか、共に何かをする事は慣れていても新鮮に思えるようにもなってきた。中には時間から時間の勤務のみで良しとする方もいるであろうが、様々な事に少しでもいいので関わる機会をこちらが設け、参加してもらえよう工夫していかなければとも感じてしまう。

また一年、少しずつ変わっていく八雲寮のこれから向かう先を見据え、みんなのベクトルを同じ向きに揃えて頑張っていかなければと思う。

(統括 白倉和裕)

ほかにわ

1月号 No.220



安全な支援のために 高齢化に対する取り組み

新年を迎え、今年度も一年間の集大成である活動発表会に向けて、利用者の方と職員が準備を行う時期になりました。また、来年度の様々な計画を考える時期でもあります。利用者の方について現状を正しく把握することが重要になってきます。

現在、デイ雲の生活介護を利用されている方の平均年齢は約62歳となっております。ここ数年での変化としては、歩行時に支援器具が必要になった方、食事の提供形態、入浴時の支援方法の変更が必要な方が年々増加傾向にあります。

デイ雲では必要に応じてケース会議を開き、支援方法について現時点での最適と思われる内容を検討し、状態に合わせて変更をしています。生産活動では、機能訓練班にて利用者の

方の残存能力を維持できるように作業療法士が計画したプログラムに沿って、日々活動に取り組んでいます。職員も高齢化していく状況へ対応をしていく必要があります。そのため、昨年生活支援員一名が高齢障害者の支援についての外部研修を受講し、その内容を事業所内で共有できるように、年末にアウトプット研修を実施することで職員のスキルアップをはかりました。

これから先は、さらに高齢化が進んでいくと予想されます。事業所のハード面についても手すりの取り付けや段差の改修等も必要になってきますが、一つずつ優先順位をつけ、進めていくことで安全面への対応を図っていきたいと考えています。

統括 福田 亮



機能訓練班の活動の様子

入浴時、車椅子での移動支援



12月、高齢障害者支援の伝達研修を実施

開催間近！活動発表会

今年度の活動発表会は2月21日に惟神記念館で開催予定です。ヘルマンハーブをはじめとした各文化活動は一年間の総仕上げの段階です。また、全員による合唱の練習を年末から始め、年明けからはオペレッタの練習にも取り組んでいます。今年は何んな演目が披露されるのか乞うご期待！！皆様のご来場をお待ちしております。



平成二十年から利用され、花・野菜班に所属し屋外作業を頑張っています。
* * *
プロレスの観戦が好きで、YouTubeで昔の試合の動画をよく見えています。



竹原一郎さんの紹介です。



R2年4月植樹直後(上)
R7年12月現在(下)
苗は「九年母を継承する会」より頂いたもので、九年母は「ほかにわ」56号・59号で取り上げています。

六年目の九年母

約六年前に植樹した「九年母」の苗が、大きく立派な木になり、実が成るようになりました。玄関前で毎日皆の安全を見守ってくれています。(小山)



今年も良い一年間になりますように・・・

1月6日、新年最初の営業日に諏訪の池神社へ初詣に行きました。

利用者さんにとって今年は何んな1年間になるのでしょうか？皆が今年も健康と笑顔で過ごせますように(荒木)



手作り年賀状で新年の挨拶

最近、すっかり衰退してきている新年の年賀状ですが、デイ雲では他事業所と合同で手作りの年賀状を送り合う慣習を継続しています。年明けには年賀状抽選会も行われ、それぞれ景品をもらいました。これからも年末年始の風習と楽しみとして続けていきたいです。(小山)



行事予定2・3月

- ・合同年祝い
- ・活動発表会
- ・ホーム別活動

※状況により延期・中止になる場合があります。

雲と虹

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様はどのような年末を過ごし新たな年を迎えられたでしょうか。私自身も年末年始をゆっくりと休みながら、感慨深く過ごさせていただきました。

正月にあたり、食卓にはお屠蘇とおせち。新しい年の多幸の願いを込め、親との食事を楽しみました。近年、おせち料理も家庭での手作りだけではなく、料理店やスーパー、また通販のものも味わい、年々変化を楽しんでいます。一日を楽しめることがなにより良いことだと考え、これからもデイ雲の利用者さんにワクワクを提供していくことができればと思います。今年度も宜しくお願致します。

副主任 高松 豊



共同生活援助事業所
(介護サービス包括型)
悠炉里広報誌



1月号

二〇二六年 午年を迎えて

統括 井村 一美

「午」＝「馬」 跳躍の兆し・成長のシンボルでもあり、大きな成長と繁栄の年と言われて、その他にも馬に関する言葉では、跳ねる・駆け・達成するといった言葉があるようです。

グループホーム悠炉里として当初から三十年ほど経ちました。入居されている方々の入れ替わりもあり、現在では一般就労されている方から介護保険を利用されている利用者さんが生活されています。各ホームには障碍に応じた利用者の方々に、今年で平均年齢も五十五歳となり、年々高齢化が課題となっています。環境と生活をしていく中での支援の仕方には工夫が必要とされています。それ故に、スタッフの経験と技術等、安心安全な支援が求められます。

初詣で運試し

町内にある温泉神社に歩いて初詣に行き、運試しをしてきました。くじを引くと大吉や小吉が出て、みんなで見せ合いです。今年が誰が一番運がいいのかを競い合っていました。今年もケガや大きな病気をしないで過ごしてもらいたいです。

(安藤)



午年 年男・年女です！



そういった意味では、今年の干支である「午」。しかも六十周期で巡ってくるという丙午、強いエネルギーで道切り開き物事が順調にすすむ。努力が身を結び幸運が駆け込んで来るといった意味を持つ二〇二六年。私たちは言い伝えを真に受け、利用者さんが満足できる毎日にお手伝いができるよう、心掛けていく事を目標にしたいものです。

「ウマ」くいくことを、願って。

手作りケーキでクリスマス会

千代垣荘の活動で誕生日会と退院祝い、そしてクリスマス会を兼ねてのクリスマスケーキ作りをみんなで行いました。自分で作れるか心配そうな表情をする方には声掛け、手本を見せるなどの支援を行うと、表情が和らぎケーキ作りに取り組む様子が見られました。

ケーキの飾り付けには、その人の個性が現れ果物を一つずつ丁寧に飾る人、クリームをヘラで叩きながら伸ばす人、作業に夢中になり無言で仕上げている人など十人十色の個性を見る事が出来ました。生クリームにカスタード・果実をたっぷり挟み、上層部分にはお菓子を飾り豪華にして、最後に苺を乗せると一気に華やかになり、大喜びでした。みんな



(ケーキ大好き♡)

で乾杯し、いざ食べ始めると「うまかー」など嬉しそうな声が上がります。皆で美味しく頂きました。最後は記念撮影をして活動を締めくくりました。このような活動は全員が揃っていないと出来ない事なので、日頃から利用者の体調や小さな変化に目を光らせ、たくさんの個性を伸ばしていきたいと思えました。

(菅原)

年末恒例 悠炉里餅つき

師走、12月30日に悠炉里利用者自治会恒例の餅つきが東望で行われました。例年ですと、利用者全員で実施しますが、感染症予防対策に平日という事もあり、少人数での開催となりました。

前日より浸しておいたもち米4升を2回に分けて蒸しました。昔は庭先で羽釜にせいろを乗せて、家族総出で1日がかかりだったと聞きますが、今は機械ひとつで、ほとんどの作業を自動でこなしてくれます。40分ほどで蒸しあがり、10分弱できめ細やかな餅が出来上がりました。餅を切る人、丸める人に分かれて鏡餅をホーム分10セットと小餅160個程作り上げました。みんなも楽しそうに丸められ、たくさん作られていました。各ホームへの配達も行い「よい正月が迎られそうですね」と喜ばれていました。

(田栗)



こゆるりと

新しい年のスタートとともに、元氣いっぱい新年号をお届けします。

今年も、号を重ねていくたびに、「こんな人がいるんだ」「こんな取り組みをしているんだ」「楽しそうだな」と悠炉里の面白さ、魅力を感じてもらえるように、今年も一つひとつの出会いや出来事を大切にしながら、悠炉里の魅力をお伝えしていきます。

利用者の皆さんの暮らしに寄り添う紙面づくりを心掛けていきたいと思えます。自分自身、今の時代に合わせた働き方をしていきながら今年も一年「働いて休んで働いて」をテーマに健康第一で頑張っていきます。二〇二六年が皆さんにとって楽しく、心地よい一年になりますように。

主任 大場康生

今後の予定

- ・2月3日 節分・豆まき
- ・2月8日～2月11日 小G沖縄
- ・自治会年祝い(未定)



我ち愛

歩みを止めず

令和七年も皆様のご協力、ご支援により無事に一年を終えることができました。心より感謝申し上げます。

就労支援事業所は、安定した仕事量の確保、提供が来てこそ、その役割を果たせると考えており、今後も職員一同尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「ワークネットやはた」設立から二十年、これまで三つの作業班を構成して

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 1月号

今後の予定

- ・年賀抽選会
- ・誕生日会
- ・年祝い

管理者 松尾 毒一

業の提供を行ってきました。どの作業班も職員並びに利用者の皆さまの頑張りや努力により成長を続け、これまでどの作業班も閉ざすことなく、継続することが出来ました。しかし、昨今の物価高騰や働き方改革が取引先の企業にも影響を及ぼし、当事業所への安定した作業供給が難しくなっていくと予測され、今後作業内容の見直しが必要となってくると思われます。利用されている方々の年齢、障がい特性の幅広さなどを考慮しながら、より多くの方が利用でき、尚且つ工賃向上につながる作業にはどのようなことがふさわしいのか、変革の時を迎えつつあると感じております。

平成十八(2006)年七月一日、定員二十名の利用も確保することも多難な時からスタートし、現在は四十二名の方々に登録していただいております。当時、皆様と切磋琢磨しながら奮闘した日々を思い出し、共に歩んだ二十年を糧に作業(仕事)を通して一人ひとりが「働きたい」「生きがい」として成長できるよう、頑張っ



祈りを込めて餅つき

二〇二五お疲れ様

十二月十三日、南島原市内の飲食店で利用者忘年会を開催しました。沢山の御馳走を前にすると、皆さん自然と笑顔になり会話が弾んでいました。

余興は、作業班対抗で新聞紙を片手で丸めるゲームで接戦の末、紙加工班が優勝を掴み取りました。

帰りの車内でも、「美味しかった」「楽しかった」と話も盛り上がりました。今年も、仲間と協力しながら頑張りましょう。

(松本)



緊張しながらの万歳三唱



海も心もスッキリ♪

海をきれいに

12月4日、島原半島うみやま街道一斉清掃に、参加してきました。

この活動は、長崎県の島原半島をエリアとし、国道57号、251号、389号の全長約194キロメートルの魅力ある自然景観を守るために毎年開催されている清掃活動です。

今回は、加津佐町の海水浴場のごみ拾いを、事業所間で協力して砂浜を歩きながらごみ拾いをしました。砂浜には、煙草の吸殻、空き缶やペットボトル、ゲートボールで使用する玉など様々なごみが落ちていて「こがんとのあった」と言いながら黙々と取り組みました。毎年、清掃活動を行っていてもごみは無くなることはないでしょうが、1つ、2つとごみを拾うことで確実にごみは減っていると思ひ、これからもこの活動を継続していきたいと思ひます。

(竹市)

ワークネットやはたの今日のこの人

今回は「坂木 優太」さんです。



Q趣味は？

「走ることです」

Q一番楽しみにしている事は？

「毎年、出場している原城マラソンにでることです」

Q将来の夢を教えてください。

「アイロンの仕上げを上手になりたい。スーパーの商品出しの仕事に就きたいです」

被服班では、主に洗い作業や、アイロンの袖かけを担当。優しい人柄で、一生懸命に作業にも取り組まれています。夢に向かって走り続ける坂木さん。これからも職員一同サポートしていきます。

散歩道

新しい年を迎えましたが、依然として物価の高騰が続き、日々の暮らしに影響を感じる場面が増えていきます。こうした状況の中でも、利用者さんが安心して過ごせる環境を守るためには、私たち職員一人ひとりの工夫や支え合いがこれ以上以上に大切になってきています。

小さな知恵や気づきを持ち寄りながら、変化の多い時代を前向きに乗り越えていきたいですね。本年もどうぞよろしくお祈り致します。

事務次長 酒井亮裕

しんぼんしんぼ

新年のカタルシス



石川智広画伯作 『聖徳太子』

デイ雲柿の木 所長 原口 由紀子

年の暮れになると、取引先から頂くカレンダーをいったん保管し、仕事納めの日に、作業班や調理室や事務所等のいつもの場所にいつもの暦を吊り下げるのが新年を迎える準備だった。頂いたカレンダーは三つ。不足分で四つ購入したのは初めてだった。

いつ頃からだろうか、次々と減り続け、金融機関でさえ、1枚も渡されなくなった。法人本部には届いていても、飛び地の当事業所まではなかなか分配されない。こうなったら、柿の木カレンダー



今年の鬼火のやぐらは、過去最大

今年の四字熟語はこれ！

令和八年のスタートに合わせ、職員皆で今年の抱負を四字熟語にしてみました。

- ☆『趣味熱中』 所長 原口由紀子
いろいろと、悩みやストレスを感じる年頃になり、バランスをとるために好きな事で無我になる時をもつ
- ☆『常時冷静』 統括 福田恵理
感情的になりがちだと反省し、常に冷静に判断できるようにになりたいです
- ☆『雲外蒼天』 主任 園田翔一郎
この言葉のように目先のものにとらわれず、先を見据えて行動し、毎日を大切に生きたいと思えます
- ☆『体重減少』 副主任 森内さおり
毎年思いながら叶わないので、今年こそは：。目指せ〇〇キロ台！
- ☆『遅寝早起』 副主任 佐藤 祐太
自分の時間も大事にしつつ、仕事も支障がでないよう



ようこそ 柿の木へ☆



中村しのぶ 看護師

利用者の方たちと仲良くがんばります



←デイ雲柿の木のInstagram
売店(これ波これ和) 情報が充実♪



- ☆『不言実行』 支援員 松永 巧
有言実行はハードルが上がるため、この言葉が合っているとと思いました
- ☆『米食太力』 支援員 中村知佐美
私は、ご飯(米)が大好きです。ご飯は私の力の源です。新年もご飯をしっかり食べて、図太く、力強く、子育ても仕事も頑張っていきたいです
- ☆『健康第一』 支援員 濱松 香
昨年、例年よりインフルエンザがはやったため、今年健康第一に決めました
- ☆『明朗闊達』 世話人 有江由紀子
細かいことにこだわらず、明るく過ごしたい
- ☆『健康体检』 世話人 下田ルミ
元気な体と心で支援を頑張りたい
- ☆『不撓不屈』 世話人 苑田美沙希
揺るがない意志を持って、どんな困難や苦勞にくじけず立ちむかう



言の葉

つい先日、宿直で見回りに出た際のことですが、グループホーム間の車移動の道中で、夜の田舎道にしては珍しく、人が十数人集まっていた。その後、再度その場所を通ると、パトカーが五、六台止まっており、ただ事ではない雰囲気。不審者が目撃されたことと、宿直をする私は、いつも以上に戸締り確認に余念がありませんでしたが、私の頭を過ったのは、「相模原障害者施設殺傷事件」。同じ職を持つ者として、あの事件の衝撃は忘れられません。放課後等デイサービスの子どもたちと一緒に、不審者対応訓練を行います。実際に不審者を前にした時、身がすくむことがないだろうか、「マニュアル通りに」みんなを守る事ができるだろうか、といった懸念が、弱虫な自分はいきれません。そんな弱虫でもできることを一つ一つ準備し、もしもの時に備えることが、利用者の方も、自分も、私以外の弱虫な職員も守る術になるのだと思っています。(恵理)

2月の行事

- 4日 年祝い※
- 14日 作業班別活動※
- 18日 弁当の日

※印は参加費あり

食の二丁目一番地

GH デイ雲柿の木 主任 園田翔一郎

好きなものを好きなだけ食べたいと誰もが思う一方で、食生活で喜んでいただきたい気持ちには活を管理した、正しい生活を送る必要がありますが、健康への影響としては決して多くはないでしょう。て、過食による体重増加や生活習慣 本人や家族の判断を得にくい慣病リスクを考えなければなりません。食における「楽しみ」とをすべて受け入れる事で、健康を「健康維持」のバランスをどのよ阻害するとわかっていてとしたうにとつていくかに職員は、様々ら、職員はどのように支援すればな提案をしながら支援に取り組 良いか、大変難しい問題です。む毎日です。

自己責任の判断をすべて入居者に委ねる事は、結果無責任な支援につながるし、「健康」という大義を振りかざし、管理が過ぎるのも良くありません。ちょうどいい塩梅の答えと言っても、納得してもらえずに虐待の通報をされることすらあります。

更に、職員の対応に違いが出やすいのも「食」の支援です。カップ一杯のコーヒーに、A世話人は、スティック1本、B世話人は、自由と放任を間違わず、楽しみと健康のバランスの支援は、ステイック1本、B世話人は、自由と放任を間違わず、楽しみと健康のバランスの支援



世話人手作りのお弁当

あなたと私のエピソード

九年前に南串分教室小学部入学にともない放課後等デイを利用されたRさん。

放デイ見学時は、洗濯機の隅っこに丸まってしばらく動く事もなく、緊張し、お母さまも「大丈夫かな・・・」とご心配されながらの利用開始となりました。しばらくすると放デイにもすっかりなれてきて、夏休みのプールで大はしゃぎで楽しまれたり、仲間にダンスを披露してくれるようになりました。

昨年の十一月に、中学部三年生四名がワークネットやはた「被服班」に二日間の職場体験実習に来られRさんも来られました。担当の先生の注意事項を良く聞き、紙折りを綺麗に折る姿に成長を実感しました。

身長も伸び子供から大人になっていく姿を見る事ができとても喜びを感じました。

これからも見守りながら応援していきます。ワークネットやはた 副主任 光長まゆみ



光長副主任 と Rさん



日常や行事で嗜好品は皆さんの楽しみ



食育考

デイ雲柿の木 栄養士 菅奈緒美

デイ雲柿の木では、食事をとても大切にしています。利用者は小学生から80歳までと幅が広く、最近では障害や加齢により、きざみ食などの特別食が多くなってきました。

その為、一人ひとりの体調や状態に合わせた食事作りを心掛けています。体調やその日の様子に目を向けながら、無理なく安心して食べられるよう、介助につく職員も気を配っています。

また、食事の時間を楽しめるよう、バイキングや選択食を取り入れたり、利用者や職員が育てた野菜を食事を使うなど、小さな地産地消にも取り組んでいます。食事の時間は「楽しみや生きがいにつながる時間」だと思います。

柿の木の給食が、これからも皆さんの「食べる喜び」を支えていけることを願っています。

「お口は、健康の二丁目一番地」は口腔ケアのCMですが、「食事(食べる)こと全て」も二丁目一番地だと私は思います。

自由と放任を間違わず、楽しみと健康のバランスの支援



クリスマスに骨付きのフライドチキンをパクリ



鬼火でアツアツの焼きいも



標準語にすると「大丈夫 大丈夫 誰でも一緒なんだから」となります

(八雲寮 福田弓子)

遊び心で方言を書いたら面白いかなと思いついて書いています。共感できる言葉やちよつと元気が出る言葉を書くのがマイブームです。友達や親戚に贈ると面白い、ほっこりすると思ってくれます。

これからもクスッと笑える言葉を楽しみながら書いていこうと思っています。

マイブーム・マイコレクション